

アート・オブ・ベースボール



スポーツ文化評論家 玉木 正之

(9)

戦前や戦後間もない時期のプロ野球のポスターには、選手の豪快な瞬間を描いたものが多い。少年雑誌や野球雑誌にも、ワインドアップして豪球を投げる瞬間の投手や、横っ跳びでライナーの打球に

飛びつく野手の姿、打者が力強くバットを振った瞬間など、はっきり切っている。何より素晴らしいの

それだけに野球の荒々しい迫力は投手に向かって「参ったかっ！」

と言わんばかりの面魂である。モデルは誰だ？ 景浦将も藤村富美男も右打者だし、左の松木謙治郎は眼鏡をかけているし……いやそんなことはどうでもいい。この絵を描いた無名の画家は、おそらく野球の凄さ、素晴らしさを、まだ野球を見たことのない多くの人々に、とりわけ子供たちに伝えたかったに違いない。「この勇姿を見よ！ 野球はスゴイぞ！」と。最近のプロ野球選手には、笑顔の肖像写真の多いのが残念だ。(1936年)

「大阪タイガース来る」

大阪タイガース来る



投手	若林 藤村	林園生 材田	藤古 藤村	川辺 彦
捕手	水川 門前	松木(首勝) 景浦	伊賀上 岡	山口
内野	平井 藤井	森 茂雄		
外野				
監督				